【授業科目】看護学概論　　Introduction to Nursing

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
加藤 睦美、杉崎 一美	１年次 前　期	必　修	２	３０	講　義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／看護の基本概念、看護の定義や本質、看護の役割、および看護の対象である人間の特徴について概説する。また、看護の発展や専門分化、活動領域の広がりも取り上げ、看護の目的、機能、構造が理解できるように講義する。さらに、人間の人生や健康生活に視点を置き、看護が科学的でありながらもヒューマンな思考のもとに実践されることを理解できるように講義する。 課題に対するフィードバック方法／１．授業終了後の質問疑問についてリアクションペーパーを提出。次回の授業で解説を行う。２．提出されたグループ課題や「看護覚え書」のレポートは、総評コメントを授業の中で行う。 ＊実務経験を持つ教員が授業を進める。
実務経験に関する 授業内容	看護師の臨床経験をもつ教員が、医療従事者として必要な健康や援助の考え方、医療従事者としての実践の基盤となる考え方を関連する資料・教材を交えながら教授していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー④「幅広い視野で臨床検査を考え、ヘルスケアシステムにおける臨床検査の専門性を理解し、保健・医療・福祉の専門職と連携し、地域社会に貢献できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①看護の概念、ヘルスケアにおける看護の役割、専門性が理解し、看護とは何か自分の言葉で述べられる。 ②看護の対象者である人間（家族含む）を看護学の視点から説明ができる。 ③看護の目的をヘルスプロモーション、日常生活援助、診療に伴う援助の側面から理解し、目的を実践するための看護の機能や役割が説明できる。
時間外学習に必要な 内容・時間	１.第 1～15 回：授業計画に示された内容に即して、教科書や図書館の文献を活用して内容を調べてくる。（予習各 30 分） ２.授業後の解説を聞き、疑問点を解消しておく。（事後 10 分） ３.第 2～6 回：ナイチンゲールの「看護覚え書」を読み、意見をまとめ、レポートを提出する。（300 分） ４.第 5 回、第 15 回：配布された文献を事前に読み、指示した課題を行ってくる。（事前課題 120 分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位 15 回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）（１単位 15 回科目の場合：予習+復習 1 時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第　１回　授業の導入、専門職の定義と看護のイメージ　加藤 第　２回　看護の歴史と看護の概念の変遷１：看護の発展の歴史をナイチンゲールの功績とそれ以後の変化をたどる　加藤 第　３回　看護の歴史と看護の概念の変遷２：主な看護理論家、ICN や ANA や日本看護協会が示している定義から考える　加藤 第　４回　様々な法や保健師助産師看護師法にみる看護の概念：看護はどのような職業か考える　加藤 第　５回　保健師助産師看護師法の看護の定義を読み解く：グループで読み解く　加藤 第　６回　看護の目的と機能と役割　加藤 第　７回　看護の本質、看護の構造と実践：ケア/ケアリング、ヒューマンサイエンスの視点から看護の本質を考える。看護の実践は看護過程や人間関係形成、意思決定過程等に基づいて行われていることを理解する　加藤 第　８回　看護の発展と専門分化　杉崎 第　９回　健康の概念、生活環境の概念：健康と病気と生活環境と看護の関係を考える　加藤 第 10 回　看護の対象の理解１：統合体、生活者として理解する　加藤 第 11 回　看護の提供の仕組み　杉崎 第 12 回　看護の広がる活動領域　杉崎 第 13 回　看護の対象の理解２：ニードを持つ人間として理解する　加藤 第 14 回　看護の対象の理解３：病者の心理や行動を理解する　加藤 第 15 回　看護の対象の理解４：「病の体験」の文献をグループで読み解く　加藤
評価方法 評価基準	期末筆記試験 70%　課題レポート 20%、授業態度 10%で総合的に評価する。

教科書	茂野香おる他編「基礎看護学[1]看護学概論」医学書院 峰村淳子他編「よくわかる看護職の倫理綱領第 3 版」照林社 フローレンス・ナイチンゲール『看護覚え書』(現代社)	参考書等	ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」（日本看護協会出版会）
学生への 助言等	この科目は看護を学ぶための基本として、とても大切です。幅広い知識が求められるため、深く考える力や広い視野を養うことも必要です。さまざまなことに興味を持ち、積極的に体験を通して視野を広げてください。共に学び合いながら、学習目標に向かっていきましょう。		